

令和4年度第2回狭山市協働推進協議会会議録

開催日時 令和4年10月31日（月）
午後2時00分から午後3時40分まで

開催場所 狭山市役所603会議室

出席者 天谷委員、荒木委員、安藤委員、石川委員、遠藤委員、小川委員、
後藤委員、豊泉委員、影山委員、小山委員

欠席者 田口委員、水村委員、安永委員、前田委員、宮地委員

事務局 自治文化課長、同課主幹、同課主任、同課主事補

公開・非公開の別 公開

傍聴者 なし

1 開会

2 議題

- (1) 令和4年度市民提案型協働事業（追加募集）採択結果について
資料4～資料7：採択された3事業について、事務局及び採択事業に関
係する委員から説明。

〈質疑応答・意見〉

委員 市民主体の事業が実施されることにより、入曽は商業施設の開発だ
けではなく、これから地域全体が良くなっていくのではないかという
期待感がとてもある。

(2) 今後の協働について

市のこれまでの取組や考えを報告し、各委員から自ら関わる分野におけ
る現状と課題、今後の取組を説明。

〈質疑応答・意見〉

委員 A 医療に携わる立場として、いかに地域に貢献できるかという点を考
えると、医療面だけではなく、地域防災に特化したことを実施した
いと考えている。現時点では、職員や防災士の協力を得ながら、災
害時における児童の安全に対する意識及び知識の向上を目的に「親
子で楽しむ防災健康教室」の実施を検討中である。

会長 市民が実施する防災に関する支援活動は、非常に重要なテーマであ
り医療従事者が災害時を想定して行動することは、市民にとって非
常に安心感があるため、このような活動が広がっていくと良い。

- 委員 B 都心の人に農業を通じて狭山について知ってもらうことを目的に、農業体験を実施している。また、各分野の専門家の協力を得ながら、市内の農作物の消費促進のための事業を実施している。
- 委員 C 学生と地域の課題解決に向けた活動をしているが、行政の補助金は、交付時期や手続き等に制約があり、学生等が利用しづらいものであると考えている。また、行政は補助制度について広く周知をする必要があると考えている。
- 委員 D 大学職員としては、行政から事業への協力依頼をいただくことは、ありがたいと考えるが、ボランティアとして事業に参加する際、学生に求める役割がより明確になると大学側としても協力しやすい。
- 会長 ボランティアに参加する学生は、ボランティアを通じて、やりがいや充実感を得ながら活動をしているという理解でよいか。
- 委員 D 授業以外の活動を通じて、やりがいを得ていると考えている。ボランティアに参加する機会を求めている学生は多いものの、いかに実際の活動につなげるかという課題がある。
- 委員 E 市内には、起業に関するスクールや起業家同士の交流会等がほとんど存在しなかったため、市内でも女性の起業家や起業をしたいと考える女性が交流できる場づくりを行いたいと考え、女性の起業家を支援する団体を設立した。現在は、起業について学べる機会が増えているため、より女性が活躍し、住みやすい街にするため、また新たな支援を行っていきたいと考えている。
- 会長 今後、地域において、いかに女性が活躍するかということは、重要なテーマになってくる。これまでの活動の中で、国や県、市の支援などはあったのか。
- 委員 E 行政の視点からアドバイスをもらったり、行政と共催で事業を実施したりすることにより、幅広い活動を行った。
- 委員 F 新型コロナウイルス感染症の影響で思うように自治会活動ができない中、いかに活動を継続していくかというところに重きを置いている。今後、活動を継続していくためには、行政や地域と協働することが重要である。

委員 G 今後、協働によるまちづくりを推進していくためには、まちづくりに関する知識を持つ人が、まちづくり等についてのノウハウを提供する機能や、補助金の資金調達に関するアドバイスを提供する機能、事業の企画立案を支援する機能が必要である。

会長 各委員の話にあったように、協働によるまちづくりを推進していく上で、個々の活動も大事だが、それぞれの活動が連動し、そこから新しい活動が生まれるという構図が必要であると考えている。

3 今後のスケジュール

2月上旬を予定している。詳細については、決まり次第連絡する。

4 閉会